

第2回 Y B a c t ミーティング議事要旨

開催日時：令和3年12月15日 午後7時～午後9時

会場：やぶ市民交流広場 大会議室

参加人数：メンバー 15名、事務局 4名、阪急CM 1名（Web 参加）

資料1 各種事業の実施状況と今後の予定

資料2 やぶ市民交流広場オープンハウス「ムコムジカ」実施結果

資料3 文化芸術に関するアンケート結果

資料4 R4年度事業計画の協議用資料

1. 開会

2. 芸術監督挨拶

- ・コロナの影響で延期になっていたピアノ開きコンサートが先日ようやく開催できた。ホールはとても音響がよく、ピアノもホールの雰囲気合った豊かな音色で安堵した。一方で音響や照明などの課題も見つけられた。アンケートでもいろんな意見が出ている。無理なものもあるが課題を解決しながらより良い場所にしていきたいと思う。

3. 確認

- ・第1回議事録に対して修正等の確認

4. 報告事項

資料1 各種事業の実施状況と今後の予定について説明

- ・今年度の事業の実施状況として12月15日時点での養父市全体のホールで実施した事業をまとめている。また、今後の4館の事業の予定を記載している。
Y B ファブは9月以降自主事業とともに貸館についても多くの方に利用していただいている。

資料2 ムコムジカ実施結果報告について説明

【ムコムジカについて】

- ・11月28日に武庫川女子大学音楽部の学生とやぶ市民交流広場との共同企画であるやぶ市民交流広場オープンハウス『ムコムジカ』を実施した。
- ・オープンハウスという名前であるが、横須賀芸術劇場のオープン例の参考にもあるように公共施設のプロモーションとして、一日中、同時多発的にイベントを行って市民や来館者に施設のPRを行うというイベント。

- ・当日は5つのイベントを行い、シルバー人材センターの豊年まつりと同時開催ということもあり、非常ににぎわった。
- ・楽器体験は絶え間なく市民のみなさまにお越しいただき、学生が演奏の仕方をレクチャーした。お絵描き体験では約100枚の作品を飾ることができ、子供たちにこれだけ来ていただけたということで良かったと思う。リハーサル室は窓を全開にして、芝生の場所でお客さんに演奏を観ていただいた。これは、設計時からこういった利用方法の想定がされていて初めて実現したものだが、たくさんのお客さんに来ていただいた。ファビュラスコンサートは演奏学科の学生が出演し、2台のピアノでの演奏もあった。
- ・来場者としては似顔絵が100人、楽器体験が200人前後という感想。ミュージックインセラピーは100人前後、ピクニックコンサートも100人前後、ファビュラスコンサートは200人前後。

【ムコムジカのアンケート結果について】

- ・養父市からの来場が圧倒的に多いが、豊岡市から12%も来ているし、朝来市からは案外少ない結果というのは今後のイベントの集客という部分で参考になる。
 - ・年齢では60歳以上の方の来場が多い。
 - ・集客ではチラシの効果が6割と強く、今回は新聞折込をしたのでその影響もあると思う。SNS関係はやはり少ないという印象を受けた。
 - ・初めての来場の方が多く、施設を知っていただく目的としては良かった。
 - ・アンケートの意見から課題部分を挙げると、もっと養父市民が入って盛り上げられたらよかった、養父市民の聞くマナーを正してほしい、イスを場外に用意してほしい、若い人の力みなぎる本場の音楽に触れて感激した、スポットライトの使い方、マイクを使つての歌声は合わないという意見があった。すごく残響があるホールなのでマイクの使い方には慎重になったほうが良い。
- こういう子供も、いろいろな世代が気軽に芸術に触れ交流し合えるような企画を期待している、毎日でもコンサートをしてほしい、ピクニックコンサートは小さなお子さんを含め気軽に異世代の皆さんが楽しめ大変良かった、照明のセンス最悪、気軽に音楽を聴ける催しを今後も企画していただきたい、ピクニックコンサートは良い試み、ホールの音響の良さを最大限に活かされていて、養父市にこのような素晴らしいホールがあることを嬉しくおもった、来場が少ないPR不足では、綺麗なドレス、とあるがファビュラスコンサートでは出演者がきれいなドレスを着て歌ったがこういったドレスを見る機会というのも喜ばれるのかな、と思った。小さな子供も一緒に参加して楽しめてよかった、自主公演を応援してあげてください、などのご意見があった。

【課題について】

- アンケートの中に2ndの人が頑張っているのにピアノのバランスが悪くてかわいそうだったというコメントがあった。シングルカワイとカワイの昔のピアノはまるっきり違うものなので2台のピアノでの演奏は難しいだろう。
- スタッフのスキル、特に音響と照明が課題。
- 高齢なスタッフが重いものを運んだりせざるを得ない状況を見て、年齢が高くなると視覚、聴覚、判断力に衰えがみられるので特に安全管理面で問題があるのではないか。
- 公演制作や運営スタッフについても公民館職員がひとりで対応したが、調整事項も多く、無理があるのではないかと感じた。今後の体制については課題かと思う。
- 職員がフロントスタッフとして対応しており、この点の整理も必要。
- 舞台公演担当者であるスタッフがすべてのスタッフのフォローに回っていて負担がすごく集中していると感じた。
- 開場や開演の連絡、客席ドアの開閉、入場整理、客席案内、配布物などフロントマネジメントの各種ルールが未整理だと感じた。
- ケータリングに制約があり、弁当は市費でOKだが、飲み物や軽食は支出できないなど、そういった部分はなんとか改善が必要。
- 舞台袖の照明は蛍光灯しかなく、本番中真っ暗になるので、展示用のライトで対応したが安全面からも至急対応すべき。
- 舞台袖から舞台上の様子が確認できないので舞台モニターが必要。
- 反射板の正面反射板はグレーなので暗く、わざわざシーリングライトを照射して明るくしないと暗さが目立つ。
- ロビーのスピーカーの音声が小さいので対応が必要。
- 3点吊りのマイクが無いので録音しようと思うと録音用の高いスタンドを立ててそこにマイクを設置しないといけないとか、現状の吊り下げ用マイクでは高さ調節に非常に手間がかかる。
- 舞台備品で照明や平台の絶対数が不足している。八鹿文化会館のものも使っているが、見た目的にも良くないのでそれらの整備もしていく必要がある。
- 情報発信のスケジュール感が必要。チラシが出来たのが1週間前。広報についても最近ようやくホームページにイベント情報が載るようになってきたが、ムコムジカの時は全く載っていなかった。
- チケットはプロの場合は指定席がベター。
- 無料イベントで、もぎりが必要ない場合においても、お客様の誘導にフロントスタッフが必要。配置図の看板を設置していてもそれを見ていける人は限られてくるのでご案内が必要。YBファブはホールへの動線が分かりづらい。

- ・自主公演をするホールではロビーのスタッフの所要人数をあらかじめ決めている。フロント廻りのスタッフだが、芸文では標準的な公演でドアマンも含めて15名としている。YBファブではまだ決まっていないと思う。
- ・開場するときどこから指示が出るのか、扉はだれが開閉するのかを決めていかないといけない。
- ・公演中のドアの開閉についても入ってきて良いアーティストもいるが、嫌がるアーティストもいる。これから有料の公演ではそのルール作りをする必要があると思う。

【ボランティアスタッフについて】

- ・ボランティアスタッフは仕事しながらなので仕込みをする人と本番が違う人ということもあると思うし、公演ごとに出せるスタッフの数は違ってくると思う。ビバホールはきっちりしていると感じるが、各ホールにもばらつきがある。
- ・登録は40人程度あるが、あくまでもボランティアなのでその日予定が空いていて出役できるということになれば5割以下になってくると思う。
- ・スタッフについては公民館が公募して多くの方に手を挙げていただいた。本来は養成講座を設けて続けていけそうかどうかの確認をしたうえでスタートすればよかったが、登録メンバーそのままスタートしてしまったのが現状。新しいメンバーも増えたが実際は1人にかかなりの負担がかかっている。
- ・コロナもあり、建設も遅れたので当初想定していた研修期間が取れなかった。それらはこれからやれば良いことだと思う。この建物のどこに気を付けるべきかワークショップの形でもやることが大事ではないか。
- ・対策として芸文のオペレートを行っている事業者にも声をかけている。プロにも参加をお願いしながらスタッフの研修を兼ねて早めにやっていく。フロント廻りについても研修を行いたい。この機会を活かしていただき本番だけでなく仕込みからリハーサル、その流れはどうなのかというところも個々の技術も高める機会としてほしいと思う。また、舞台監督的な存在の必要性は感じており、検討している。
- ・プロの公演でオペレートをアマに任せるのは無理があるのでプロに頼まざるを得ないと思うが、いろんなプロが入ってくると機材の設定を元に戻せなかったこともあるのでルールをきちんとする必要があると思う。
- ・市とボランティアの主体と責任の所在がとても曖昧を感じる。舞台作業は危険が伴うので、そういったことも考えながらボランティアの方に負担がかからない仕組みを構築すべき。

- おおやホールではボランティア保険で対応している。だからスタッフ以外は機器に触れないということになる。ビバホールはNPO法人なのでオペレーターとの調整も養成講座もNPOで対応しているし、2年間は独り立ちできない。
- ビバホールのボランティアはNPO法人。最初はそうではなかったが立ち上げて事務員をやとって、事務員が中心になって企画集団とオペレータークラブとの連絡調整をしている。予算の範囲で宝くじの補助を利用するなどして誰を呼ぶかを企画集団が何度も会議を行って、それからオペレータークラブがもぎり、案内やドアマンの配置などを行う。市からの委託料で予算が決まる。
- 市の職員の場合は人事の点もあり、募集するにも定員の問題もあり難しい部分もある。ビバホールのやり方はやりやすいのでは。出来る範囲ではあるがNPOが主体的にその中で最善のことが出来るのではないかと思う。
- 質を挙げれば負担が増える。市民が高齢化するなかで気軽に参加してもらってそのすそ野を広げることは一つの選択肢で、一方で質も上げることも大事で、そのバランスが難しい。
- NPOにするのは大変なことだが、私たちの世代の次の世代の方たちを入れていこうと思うときちんとお金を用意していかないといけない時代になっている。いつまでも善意に頼っているだけではなかなかすそ野は広がっていかないと思う。
- 開館式典でもマイクの調子が悪い場面があった。慣れてないからということかと思う、市がボランティアを募集して、丸投げしている感じがする。
- 短い期間の中オープニングなど本当に大変だったと思う。市のお話でもスタッフの研修は予定されているとのことなので、T2さんとの打ち合わせを進めていただけたら良いと思う。似たような話が但馬の別のホールからありますし、専門職大学も相談に乗っていく。

【その他の課題】

- ピアノ開きでも許しがたいことが2つあった。ピアノ2台のアンサンブルをレベルが違う2台でやれるという認識があったこと。もうひとつは前日のリハ室が使用されていて、電子ピアノでリハをする予定だったこと。これはプロの感覚ではありえない。このようにプロの認識は違うので、一流のアーティストのもてなしに添えるレベルのスタッフをそろえる必要がある。
- このホールでどのようなイベントをするのかでどういうスタッフを配置するかが変わってくると思う。目的に合ったスタッフをうまく配置できるプログラムが出来れば但馬全域から来ていただけるホールになると思う。
- このホールは音楽を重視し、建設時に予算が不足中でも音響に関することは質を落としていない。その過程で3点吊りマイクは縮減したがこれらは計画をたてて対応すればよいこと。これから著名な音楽家の方々が来られたときに音響も

良いしオペレートも良いということになれば評判になると思う。また、直営が方針として出た以上はボランティアスタッフとの関係も市が必要な予算はつけてしっかりと対応すべきことだと思う。

- 設備やスタッフの問題などは認識している。開館以降窓口対応が予想以上に煩雑でイベント対応が十分でないことも認識している。公民館と文化芸術推進室と連携して対応していきたいと考えている。人員不足についても内部的に検討し担当課として要望している。
- 今年度著名なアーティストの受け入れが決定している公演に関してはT2に頼まざるを得ないしそれを研修の一環としたとしても、研修自体は別のプログラムで組むべきだと思う。ハコは良いけど運営が悪い、という音楽家の口コミで広がるのが養父にとっては一番よくないこと。ロードマップを作成しこの委員会の場で皆さんのお知恵を借りながら議論していくことが望ましいと思う。T2に頼むとお金もかかるので2500万円のわりふりについてもどのように配分していくかも検討すべき。昨年度文化庁の補助金の申請を行い、残念ながら開館前で採択されなかったが外部資金を取りに行くなどいろんなことを考えていく時代であると思う。自主財源だけでは難しいのでこの場には専門の方もいるし、そのあたりも考えて2、3年で軌道にのっていけるようにするのが理想かと思う。
- オープニングはどこの館も大変だが、それは何のためにやるかという市民のため。大量の税金を投入して建物を整備したということを市民に還元しなければいけない。そういう意味では告知が不足していた点を見ても少し意気込みが足らなかったと感じる。しかしこれから挽回は出来ると思うし、挽回すべき。
- 体制として市側でだれが責任者でどの役割かなど顔が見えるようにすべきで、そのほうが市民の方も安心する。市の方で足りない部分を学識やこのメンバーで補佐していくのが望ましいと考える。窓口がだれかを決めたほうが外部の人間もコミュニケーションしやすくなるのではないか。
- 今意見をいただいている外部の方と市側で意見が言い合えるようにしとかなないといけない。次の段階として、公演については希望がある公演を行っていくのが良いのか、アンケートにも書いたが自分たちで輪を作ってそれを育てていく企画やオーケストラを5年くらい呼ぶという企画があっても良いが、誰がイニシアチブをとってどういうふうやっていくかを決めないと進まない。

【文化芸術に関するアンケート結果について】

- 文化芸術に関するアンケートの結果を見て、正直な意見で嬉しかったが大半の方は予算上呼べないと思うが何かご意見は。
- アンケートをみても音は良かったとかいいホールだという声が多いのでそこは押さえておきたい。イベントのアンケートを見て気になるのはクラシックへの要望

は少ないということ。これからどうやってブックリングしていくかということもあるがそのへんのすり合わせはどうすべきか。アンケートにしたがうとクラシックはほとんど無くなってしまう。

- 本物とは何かを考えることが大事な時代ではないかと思う。本物の音を聴けるプログラムはアンケートとは別に考えるべき。10代の人たちにとって本物の音を身体で感じられるということは重要だと思う。市民のニーズとそういった部分のバランスをとって考えるのが良いと思う。
- 関宮の商工会の若い方でクラシックとかお金にならないことには全然興味ないという方が大阪でしっかりした公演を聴かれて良い感想を言っておられた。興味のない方でも本物を聴けば感じるものがある。

【次回会議等について】

- 会議の予定からすると現在は報告事項の途中で、ムコムジカの公演で出てきた課題についてご意見をいただいているところ。おそらくいただいた課題は即答できるものではないし公民館や上司とも協議しながらすすめていかないといけないものがほとんど。今日出てきた課題については持ち帰り整理して市の方針をお示しさせていただく。年明けに会議を持ち事業計画を立てていきたい。
- 資料4に事業計画を考える視点の案を配布しているが、この視点からこんな事業が良いのではという意見などを皆さんから出していただき、それを基に学識の方々からそれならこんな人が呼べるなどの声をいただいて事業計画をたてていくことを予定していたが、今日そこまではできないと思うので再度の会議とさせていただきます。
- 意見を促すためのテーマ案を記載しているが、みなさんからこういう視点からこんな事業をしたら良いのでは、という意見をいただき、そこに具体的なアーティストの案もあればだしていただき、カテゴリ別に事務局でまとめて学識のメンバーの方々に相談させていただきながら進めていくことを予定していた。前回の会議でもお伝えしたがここですべてが決まるわけではなく、ブックリングする過程でどうなるかわからないものもあるので、ある程度は事務局ですすめて最終的に全体がまとまったところでみなさんにお示しさせていただき、追認という形になると思う。4月早々には来年度の事業一覧のパンフレットを市民に配布したいと考えている。カレンダーを見ながら次回までに案を温めてきていただけたらと思う。
- 次回にその議論をすると進まないのでは、次回までの宿題にして持ち寄る形にしたらいのではないかと。
- お金がいくらかというパズルではなく、どういったことをすべきなのかということも合わせて考えていただきたい。

- ・市民アンケートのリクエストは、主催事業ではなく貸館という形で市民が主体的にお使いいただく中で実現していただくようなものもある。2500万円の使いみちとして、市内のホールでどういう事業をこのホールが主催事業としてやるべきか、というご意見を挙げていただくイメージ。
- ・来年度の事業を考えるとというのが大きなミッションだが、今は無理だが3年後くらいにどんなことをすべきか考えられるプログラムがあれば養父市が良いまちになるかなと思う。
- ・アンケートに流されるだけではなく、このホールが市民に何を大事にして提供を行うかという考えが必要だと思う。
- ・2月、3月で決めるというお話したが、アーティストとブッキングする際、日程調整や金額的なこともあり結構時間がかかる。日程は仮の話がしづらく、やる前提で話をしないと難しい。特にポップスでは日程の空きがなくほぼ提示された日程で決定することが多いのでこのカレンダーの空き状況ではなかなか厳しいことが予想される。
- ・それぞれの館で独自で予定しているものもあるのでその調整もしないといけない。
- ・プロに講演をお願いする場合、たしかに1年前では遅いのでR5の事業の分も合わせて考えるようにしたほうが良いと思う。
- ・R5の事業もできるだけ早く、4月に入ればすぐにとりかかって行きたいと思う。
- ・こちらから宿題という形をお願いすることになったが、市も宿題はたくさんいただいたので整理してまたご案内する。

5. その他

6. 閉会